13世紀のヴィテルボの噴水に関する研究

RESEARCH ON FOUNTAINS OF 13TH CENTURY VITERBO

佐々木 学*

Manabu SASAKI

Viterbo public fountains may be classified into three types: rectangular basin fountains (fontane a vasca rettangolare), cast fountains (fontane a fuso), and overlapping caps fountains (fontane a coppe sovrapposte). I measured multiple fountains structured in Viterbo during the 13th century to compare their shapes. The results of these measurements show that many apparent similarities exist in the basin and water pipe shapes used in rectangular basin fountains, cast fountains and overlapping caps fountains. The results from this research indicate that the fountain basins and water pipes structured in Viterbo in the 13th century were specifically designed to portray the important function of drawing water, even though the fountains were more commemorative than anything else.

Keywords : Italy, Viterbo, Fountain, Typology

イタリア、ヴィテルボ、噴水、類型学

1. はじめに

1-1. ヴィテルボで製作された噴水

イタリアのラツィオ州ヴィテルボの広場と街路には、13世紀に製作された噴水¹が複数残っている。それらの中で、紡績機の錘の形に似た構造物を有している噴水は、フォンターナ・ア・フーズ²と呼ばれている。

チェチリア・ピアーナ・アゴ스티ネッティは、フォンターナ・ア・フーズを噴水類型の1つとして捉え、13世紀から20世紀にかけてヴィテルボの広場と街路に設置された噴水の類型を定義している³。アゴ스티ネッティによって定義された噴水類型は以下の3つである。

① ヴァスカ・レタンゴラーレ型噴水⁴

長方形の平面形態を有するヴァスカが建造物の壁に接して置かれ、壁または壁に接して置かれた構造物に給水管が取り付けられている噴水。

② フーズ型噴水⁵

ヴァスカが建造物の壁から離れて置かれ、ヴァスカの中央に設置された紡錘形の構造物に給水管が取り付けられている噴水。

③ コッペ・ソヴラッポステ型噴水⁶

ヴァスカが建造物の壁から離れて置かれ、ヴァスカの中央に、複数のコッパが上下に重ねられている構造物が設置され、そこに給水

管が取り付けられている噴水。

本稿では、これら3つの類型に属している噴水の中でも、特に13世紀に製作された噴水を研究対象とした。

1-2. 13世紀に製作された噴水

アントニオ・マリア・コリーニによって古代ローマの噴水メタ・スタンテ【写真1】⁷とヴィテルボのフーズ型噴水の類似性が指摘されて以来⁸、フーズ型噴水の起源は古代に遡ることができると考えられるようになった。メタ・スタンテは、皇帝ティトによって計画され、皇帝ドミティアヌスによって完成された噴水で、円形のヴァスカとその中央に置かれた円錐形の構造物によって構成されていた。水は円錐形の構造物の頂上から噴き出していたとされている。

また、古代の噴水が多数残っているオスティアの遺跡には、建造物の壁に接して長方形の平面形態を有するヴァスカが置かれている噴水【写真2】や支柱の上にコッパが1つ置かれている噴水【写真3】が複数残っている。

つまり、ヴィテルボの広場と街路に設置されているヴァスカ・レタンゴラーレ型噴水とフーズ型噴水とコッペ・ソヴラッポステ型噴水は、いずれも古代の噴水と類似した形態を有しており、古代の噴水から派生した噴水類型であると推測できる。

ヴァスカ・レタンゴラーレ型噴水とフーズ型噴水⁹とコッペ・ソ

* 法政大学大学院工学研究科 大学院生・修士(工学)

Graduate Student, Graduate School of Engineering, Hosei Univ., M. Eng.

ヴラッポステ型噴水は、20 世紀に至るまでイタリア各地で製作され続けたが、13 世紀にヴィテルボで製作された噴水は、それらの中でも最も古い例に属している。

イタリアで 13 世紀以前に製作され、ヴィテルボの噴水のように現在でも水を噴出し続けているものは少ない。さらに、13 世紀に製作されたヴァスカ・レタンゴラーレ型噴水とフーズ型噴水とコッペ・ソヴラッポステ型噴水が同一都市に残っている例を見つけることは、困難である。

したがって、13 世紀にヴィテルボで製作された噴水は、古代から現代に至るまでの噴水の発展を理解する上で重要であると考えられる。

1-3. 目的

アゴスティーネッティは、噴水の製作と修復の歴史や噴水の装飾について詳しく解説しているが、噴水の水汲み場としての機能に影響すると考えられる給水管やヴァスカや基壇の形態的特徴については十分に論じていない。

13 世紀に製作された噴水は、装飾の多い記念碑的な噴水であったとしても、水汲み場としての利便性が重要視されていたと推測できる。また、給水管とヴァスカと基壇の形態の把握は、各噴水類型の特徴を理解する上でも重要であると考えられる。そこで、本稿では、給水管とヴァスカと基壇の形態を現状調査によって把握し、13 世紀にヴィテルボの広場と街路に設置された噴水の特徴を明らかにすることを目的とした。

2. ヴァスカ・レタンゴラーレ型噴水

2-1. 噴水の設置場所と装飾

ヴィテルボの広場と街路に設置されているヴァスカ・レタンゴラーレ型噴水のヴァスカは、建造物の壁に接して置かれている¹⁰。ヴァスカは住居や教会の外壁に接して置かれることが多かったが、

サン・レオナルドの噴水のように洗濯場の壁に接して置かれることもあった【写真 4】【図 1】。

洗濯場の外壁に取り付けられた給水管からサン・レオナルドの噴水のヴァスカに水が流れ落ち、ヴァスカから溢れた水は洗濯場の外壁に穿たれた穴から洗濯場の内部に流れ込み、洗濯場の中央に置かれている洗濯用の水槽に達する仕組みになっている。

調査対象としたサン・モッチケッロの噴水【写真 5】のヴァスカは、ガッティ邸の外壁に穿たれたニッキア¹¹に嵌めこまれるようにして置かれている。また、サン・カルルッチョの噴水【写真 6】のヴァスカは、現在、保育園として使われている建物の外壁に接して置かれている。

サン・モッチケッロの噴水の給水管は、ニッキアの内部にある円形の浮彫に取り付けられている。一方、サン・カルルッチョの噴水の給水管は、壁に接して置かれている直方体の構造物にあるライオンの顔の浮彫に取り付けられている。

また、サン・モッチケッロの噴水の給水管の下には、ガッティ家の紋章の浮彫が残っている。サン・カルルッチョの噴水の直方体の構造物の正面の給水管の下には 2 つの紋章の浮彫があり¹²、2 つの側面にはガッティ家とアングイラーナ家の紋章の浮彫がある。

ヴァスカ・レタンゴラーレ型噴水は、実用性を優先して製作されたが、記念碑的性質も有していたのである。

2-2. 調査結果

サン・モッチケッロの噴水【図 2】とサン・カルルッチョの噴水【図 3】¹³のヴァスカのパラペット¹⁴の上部には、コルニーチェ¹⁵が置かれている。ヴァスカの周りに、基壇や排水溝は設置されていない¹⁶。

13 世紀にヴィテルボで製作された 2 つのヴァスカ・レタンゴラーレ型噴水は、貴族の紋章が設置され、記念碑的性質を有していたが、フーズ型噴水やヴァスカ・ソヴラッポステ型噴水のヴァスカ

【写真 1】メタ・スダンテ

【写真 2】オスティアで発掘された噴水 (1)

【写真 3】オスティアで発掘された噴水 (2)

【写真 4】サン・レオナルドの噴水と洗濯場

【写真 5】サン・モッチケッロの噴水

【写真 6】サン・カルルッチョの噴水

【図1】サン・レオナルドの噴水と洗濯場（平面図）

に比べると、装飾の少ない簡素なヴァスカを有していたと言える。

サン・モッチェッロの噴水のヴァスカの大きさは幅 1470mm×奥行き 1170mm であり、サン・カルルッチョの噴水のヴァスカの大きさは幅 2800mm×奥行き 2730mm である¹⁷。

サン・カルルッチョの噴水のヴァスカは、サン・モッチェッロの噴水のヴァスカに比べて大きいことがわかる。しかし、サン・カルルッチョの噴水は、建物の壁に接して直方体の構造物が置かれているので、給水管が取り付けられている構造物からパラペットの外周までの距離は、1300mm となっている。つまり、直方体の構造物は、給水管の取り付け位置をパラペットに近づける役割を担っていたと理解することができる。

また、サン・カルルッチョの噴水のヴァスカの中には、幅 400mm×奥行き 860mm×高さ 345mm の石が置かれている。これは、水を汲む際に、壺などを置く台として使用されていたものである¹⁸。

【図2】サン・モッチェッロの噴水

【図3】サン・カルルッチョの噴水

3. フーゾ型噴水

3-1. 装飾の特徴

調査対象としたのは、13 世紀に製作されたモルテの噴水【写真 7】、サン・ジョヴァンニ・イン・ソッコリの噴水【写真 8】、サンタ・マリア・イン・ボッジョの噴水【写真 9】、サン・ファウステイーノの噴水【写真 10】および 14 世紀に製作されたピアノスカラーノの噴水【写真 11】である¹⁹。

ヴィテルボの広場に設置されているフーゾ型噴水の円形のヴァスカの中央には、フーゾと呼ばれる紡錘形の構造物が置かれている。

13 世紀にヴィテルボで製作されたフーゾ型噴水のフーゾの最下段は、円柱と簡素な柱環によって構成されている。その上には、卵形の部位がある。卵形の部位ある 4 つのライオンの頭の浮彫²⁰には、給水管が取り付けられている。卵形の上部は、8 角錐の形をしてお

【写真 7】モルテの噴水

【写真 8】サン・ジョヴァンニ・イン・ソッコリの噴水

【写真 9】サンタ・マリア・イン・ボッジョの噴水

【写真 10】サン・ファウステイーノの噴水

【写真 11】ピアノスカラーノの噴水

【写真 12】グランデの噴水

り²¹、その上にはアクロテリオ²²と呼ばれる部位がある²³。

14 世紀に製作されたピアノスカラーノの噴水のフーズの形態は 13 世紀に製作された 4 つのフーズ型噴水とは異なっている。最下段には円柱が設置されているが、円柱の上には先端が渦巻いた葉の装飾がある。その上には、卵形の部位ではなく、6 つのニッキアによって構成された 6 角柱の部位がある。それぞれのニッキアの中に、ライオンの彫刻があり²⁴、そこに給水管が取り付けられている。6 角柱の部位の上には 6 角錐の形をした部位がある²⁵。アクロテリオは、先端が渦巻いた葉の装飾が 4 段重ねられ、その上に松笠の彫刻が設置されている。

3-2. 調査結果

調査対象としたフーズ型噴水のヴァスカのパラペットは、複数の鏡板に分割され、その上部と下部にはコルニーチェが設置されている。

ヴァスカの下には基壇と排水溝が設置されている。モルテの噴水【図 4】とサン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水【図 5】とサンタ・マリア・イン・ポッジョの噴水【図 6】は、1 つの段差と排水溝によって構成されている。サン・ファウスティーノの噴水【図 7】には、5 つの段差があり、排水溝はない。5 つの段差の最下段には、直方体の石材が置かれ、その上に手すりが設置されている。また、ピアノスカラーノの噴水【図 8】は、3 つの段差と排水溝で構成されている²⁶。

ヴァスカの大きさは、モルテの噴水が半径 1500mm、サン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水が半径 1600mm、サンタ・マリア・イン・ポッジョの噴水が半径 1692mm、サン・ファウスティーノの噴水が半径 2093mm、ピアノスカラーノの噴水が半径 2388mm であった²⁷。

モルテの噴水とサン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水とサンタ・マリア・イン・ポッジョの噴水に比べ、サン・ファウスティーノの噴水とピアノスカラーノの噴水のヴァスカが大きいことがわかる。サン・ファウスティーノの噴水とピアノスカラーノの噴水に取り付けられた給水管が長いのは、大きなヴァスカの外周からの水を汲むことを可能にするためであると考えられる。

ヴァスカ・レタンゴラーレ型噴水と同様に、フーズ型噴水のヴァスカの中にも、石の台が設置されている。モルテの噴水とサン・ファウスティーノの噴水の石の台は 4 つ、ピアノスカラーノの噴水の石の台は 6 つあり、いずれも、水を汲むことができるように、水が流れ落ちる位置に設置されている。サン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水に現在残っている石の台は 2 つであるが、ヴァスカの底に石の台があったことを示す痕跡が 2 つある。サンタ・マリア・イン・ポッジョの噴水に設置されている石の台の数は 3 つであるが、他のフーズ型噴水のように、もとは 4 つの石の台が存在していたと推測できる²⁸。

ヴァスカの中の石の配置は、それぞれの噴水で異なっている。モルテの噴水の石の台は、水が落ちる場所に設置されているものの、石が傾いて置かれている。モルテの噴水とサン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水とサン・ファウスティーノの噴水の石の台は、パラペットから離れて置かれているが、サンタ・マリア・イン・ポッジョの噴水とピアノスカラーノの噴水の石の台は、パ

【図4】モルテの噴水

【図5】サン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水

【図6】サンタ・マリア・イン・ポッジョの噴水

【図7】サン・ファウスティーノの噴水

【図8】ピアノスカラーノの噴水

【写真 13】グランデの噴水の給水管

【図9】グランデの噴水

ラペットに接して置かれている。

このような石の台の配置の相違は、それぞれの噴水の給水管の位置と水道の圧力に左右され、水を汲みやすい位置に石の台が設置されたことを示唆している²⁹。

4. コッペ・ソヴラッポステ型噴水

4-1. 噴水の装飾

グランデの噴水【写真 12】は、1212 年にベルトルド・ディ・ジョヴァンニとピエトロ・ディ・ジョヴァンニによって製作が開始され、1279 年に司法長官オールソ・オルシーニと市民隊長アウトウーロ・ディ・ピエトロの命令で完成された。

グランデの噴水は、十字形のヴァスカの中央に置かれた円柱に

よって、四つ葉の平面形態を有したコッパが支えられている。さらにその上にも円柱と四つ葉のコッパが置かれている。このように、コッパが上下に 2 つ積み重ねられていることから、コッペ・ソヴラッポステ型噴水に属している。

給水管は、アクロテリオの頂点に 1 つ、側面に 4 つ、上段のコッパの側面に 4 つ、下段のコッパの内部に 4 つ³⁰取り付けられている。そして、水が段々と水量を増しながら、上から下へ、流れ落ちる仕組みになっている。

グランデの噴水には、もう 1 つの水の動線がある。最下段の円柱に取り付けられた 4 本の長い給水管から吹き出る水の動線である。給水管は、ヴァスカの中央の円柱に設置された 4 つのライオンの頭の彫刻³¹の口に取り付けられ、パラペットの近くまで伸びている。給水管の中間部は、小さなオベリスクが置かれた 8 角形の柱によって支えられている³²。

グランデの噴水の給水管は、ライオンの頭の彫刻の口から 8 角形の柱までは正方形の断面形態をもつ部材で覆われ、8 角形の柱から給水管の先端までは 5 角形の断面形態を持つ部材で覆われている。この 5 角形の断面形態を有している部位に、5 つの動物の頭の像が設置され、そこから水が噴き出している【写真 13】³³。

4-2. 調査結果

グランデの噴水のヴァスカの平面形態は、ギリシア十字形をしている。パラペットは鏡板で分割され、上部と下部にコルニーチェが設置されている。また、ヴァスカの下には、4 つの段差と排水溝がある。

ヴァスカの中心から、給水管が面しているヴァスカの外周までの距離は、3025mm であった。フーズ型噴水の中で最も大きなヴァスカを有しているピアノスカラーノの噴水の半径 2388mm よりも、さらに大きなヴァスカである。

現状調査から石の台を確認することはできなかった。フーズ型噴水のように、水が流れ落ちる位置に石の台が設置されていたかは不明である。

しかし、グランデの噴水は、サン・ファウステイーノの噴水やピアノスカラーノのように、長い給水管を設置することで、水の噴出位置をパラペットに近づけている。したがって、ヴァスカの外周から、水を汲むことは可能であったと考えられる。

5. おわりに

本稿では、給水管とヴァスカと基壇の現状調査に基づき、13 世紀にヴィテルボで製作された噴水の特徴を、水汲み場としての機能に着目しながら論じた。

これらの特徴の中で、特に興味深いのは、コッペ・ソヴラッポステ型噴水に属しているグランデの噴水と、フーズ型噴水に属しているサン・ファウステイーノの噴水とピアノスカラーノの噴水の類似性である。

フーズ型噴水は、フーズが装飾されているとはいえ、水の噴出口は少なく、4 つまたは 6 つ給水管が取り付けられているのみである。それに対し、コッペ・ソヴラッポステ型噴水は、上下に積み重ねられたコッパから段々と水が流れ落ちる様子を見せるための噴水である³⁴。

水を汲むことを可能にするために長い給水管を設置するというフーズ型噴水の特徴と、水が流れ落ちる様子を見せるというコッペ・ソヴラッポステ型噴水の特徴が共存しているグランデの噴水は、水を汲むという機能が最優先されていた噴水から、次第に水の流れを見せる噴水へと中世のイタリアの噴水が発展していく過程を、物的に示した噴水であるといえる。

注

- ¹ イタリア語の fontana (fonte) には、「水を噴出させる装置」と「地中から湧き出る水」の2つの意味がある。日本では、イタリアの諸都市に存在している「水を噴出させる装置」としての fontana の訳語に、「水を噴出させる装置」を意味する「噴水」が用いられることと、「地中から湧き出る水」を意味する「泉」が比喩的に用いられることがある。本稿の目的は、fontana を建造物として扱い、その形態の特徴を分析することなので、以下では fontana の訳語として「噴水」を用いる。
- ² イタリア語表記は、fontana a fuso。fuso は、「紡績機の錘」または「紡錘形のもの」を意味する。
- ³ Cecilia Piana Agostinetti : Fontane a Viterbo, Fratelli Palombi Editori, 1985, pp. 25-33. アゴスティネッティによって定義された噴水類型は、ベニート・コッラディーニの著作 (Benito Corradini : Le fontane di Viterbo, Centro Internazionale la Sponda, 1998.) やマリナ・ナトリの著作 (Marina Natoli : Le fontane del Lazio, Fratelli Palombi Editori, 1998.) でも、踏襲されている。
- ⁴ イタリア語表記は、fontane a vasca rettangolare。vasca は、噴水の水を溜めることができる部位を示す語である。大きさや深さや形態に関わらず、噴水の水を溜めることができる器を vasca と呼ぶことができる。しかし、アゴスティネッティは、地上または段差の上に置かれた底の深い器を vasca と記述し、vasca の中央の支柱の上に置かれた底の浅い器を coppa と記述することで、両者を区別している。本稿では、アゴスティネッティの著作に準じて、地上または段差の上に置かれた底の深い器を示す語として「ヴァスカ」を用い、ヴァスカの中央の支柱の上に置かれた底の浅い器を示す語として「コッパ」を用いる。なお、vasca rettangolare は、「長方形のヴァスカ」を意味する。
- ⁵ イタリア語表記は、fontane a fuso。以下では fontana (fontane) a fuso を類型名として扱うので、「フォンターナ (フォンターネ)・ア・フーズ」ではなく「フーズ型噴水」と記述する。
- ⁶ イタリア語表記は、fontane a coppe sovrapposte。coppe sovrapposte は、「コッパが重ねられた」という意味である (類型名の「コッペ」は、「コッパ」の複数形)。なお、vasca の中央の支柱の上に置かれた底の浅い器を示す語として、coppa のほかに、catino, tazza, vaschetta, bacino などがある。
- ⁷ Antonio Maria Colini : Meta Sudans, Atti della pontificia accademia romana di archeologia, Tipografia Poliglotta Vaticana, 1937, p. 21. ヴァスカの中央に置かれた円錐形の建造物の遺構は、1936 年のフォーリ・インペリアーリ通りの建設の際に破壊された。【写真 1】は、1933 年に撮影されたものである。
- ⁸ Ibid., p. 39.
- ⁹ ヴィテルボのフーズ型噴水のように円柱の中段が膨らんだ形の建造物が無くても、ヴァスカの中央に柱状の建造物が設置されている噴水はフーズ型噴水と呼ばれる傾向がある。例えば、15 世紀から 19 世紀にかけてヴェネト州ベッルーノで製作された噴水の類型を定義したマリオ・ダル・マスは、角柱と円柱と彫刻が積み重ねられている建造物のように、紡錘形と認識し難い建造物がヴァスカの中央に置かれている噴水も、フーズ型噴水として扱っている。(Mario Dal Mas : Le fontane di Belluno, Gruppo Giovanni dell'Industria, 1993, pp. 28-31.)
- ¹⁰ ヴァスカ・レッタンゴラーレ型噴水に属しているポルタ・サン・ピエトロの噴水のヴァスカは、壁から離れて置かれているが、この噴水のヴァスカは、アバテ邸の外壁に接して置かれていたヴァスカを移設したものであるとされている。(Cecilia Piana Agostinetti : op. cit., 1985, p. 81.)
- ¹¹ イタリア語表記は、nicchia。「壁龕」「ニッチ」を意味する。本稿では、噴水の部位の名称をイタリア語の発音に統一するために、「ニッチ」ではなく「ニッキア」と記述する。
- ¹² 直方体の建造物の正面にある 2 つの紋章は、劣化しており、判読できない。

- ¹³ 本稿で作成した噴水の図面は、基本的に給水管が設置されている位置で切断した断面図である。しかし、サン・カルルッチョの噴水の断面図は、給水管の位置で切断した場合、ヴァスカの形状を理解することが難しくなるので、切断位置を変更した。
- ¹⁴ イタリア語表記は、parapetto。本稿では、ヴァスカの縁の立ち上がり部位を示す語として「パラペット」を用いる。
- ¹⁵ イタリア語表記は、cornice。「額縁」「仕切となる部位」「コーニス」を意味する。本稿では、噴水の部位の名称をイタリア語の発音に統一するために、「コーニス」ではなく「コルニーチェ」と記述する。
- ¹⁶ サン・カルルッチョの噴水の前面には段差があるが、これは近年の舗装工事の際に形成されたものである。
- ¹⁷ 本稿で示すヴァスカの大きさは、パラペットの上端に設置されているコルニーチェの外法を計測したものである。
- ¹⁸ 14 世紀以降にヴィテルボの広場と街路に設置されたヴァスカ・レッタンゴラーレ型噴水の多くのヴァスカの中には、石の台が置かれている。
- ¹⁹ ピアノスカラーノの噴水が製作されて以降、ヴィテルボの広場には、フーズ型噴水は設置されなかった。ピアノスカラーノの噴水が製作されたのは 14 世紀であるが、ヴィテルボのフーズ型噴水の特徴を理解する上で重要であると考え、調査対象とした。
- ²⁰ サンタ・マリア・イン・ボッジョの噴水の卵形の部位は、2 つのライオンの頭と 1 つの男性の顔と 1 つの女性の顔の浮彫で構成されている。
- ²¹ モルテの噴水にはアカンサスの葉の装飾があり、サン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水には碑文が彫られ、サンタ・マリア・イン・ボッジョの噴水には犬が走っている姿を描いた浮彫があり、サン・ファウスティーノの噴水には 2 種類の紋章の 2 つずつ彫られている。
- ²² イタリア語表記は、acroterio。「アクロテリオン」を意味する語である。本稿では、噴水の最上部にある、彫刻で構成された部位を示す語として用いる。
- ²³ モルテの噴水には、4 つの葉に支えられた松笠の彫刻が置かれている。サン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水には、つぼみの形をした部位がある。1979 年までは、つぼみの形をした部位の上に松笠の彫刻が設置されていた。サンタ・マリア・イン・ボッジョの噴水には、サンタ・ローザの奇跡を描いた彫刻が置かれている。サン・ファウスティーノの噴水には、先端が渦巻いた葉の装飾の上に松笠の彫刻が置かれている。
- ²⁴ 6 つのライオンのうち 1 体の顔は、擬人化されている。
- ²⁵ サン・ニコラとサンタンドレアの上半身の姿の浮彫がある。
- ²⁶ 筆者が作成した基壇と排水溝の断面図には、排水溝の縁石の段差の認識ができない箇所がある。これらは、地盤面と縁石の上端の高さがほぼ一致している部分と、縁石の上端の劣化により段差が消失している部分を示している。
- ²⁷ パラペットの外周を計測し、その値からヴァスカの半径を算出した。
- ²⁸ サン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水とサンタ・マリア・イン・ボッジョの噴水の平面図には、消失したと考えられる石の台を点線で示した。
- ²⁹ 水道の水圧は、水源によって左右されていたと考えられる。モルテの噴水とピアノスカラーノの噴水は Sorgente della Mensa を水源とし、サン・ジョヴァンニ・イン・ゾッコリの噴水は Sorgente di San Giovanni in Zoccoli を水源とし、サンタ・マリア・イン・ボッジョの噴水は Sorgente della Mazzetta を水源とし、サン・ファウスティーノの噴水は Sorgente del Respoglio を水源としていた。
- ³⁰ コッパの内部に設置された給水管から、水が噴上げる仕組みになっている。
- ³¹ 1424 年にベネデット・ダ・ペルージャによって製作されたものである。
- ³² 1827 年に建築家ルッチの設計で、それまで設置されていた 2 つのライオンの像と 2 つの人物の像が撤去され 4 つのオペリスクが設置された。なお、筆者が作成した平面図から読み取る事は難しいが、ヴァスカの中央に設置された太い円柱を取り囲むように配置された 4 つの柱は、8 角形の断面形態を有している。
- ³³ 【写真 13】には 3 つの動物の頭の像しか写っていないが、この裏側に更に 2 つの動物の頭の像が設置されている。
- ³⁴ コッペ・ソヴラッポステ型噴水であっても水汲みの機能を有する噴水は、多く存在している。例えば、ヴァスカが小さければ、コッペの側面に取り付けられた給水管から流れ落ちる水を汲むことができた。しかし、グランデの噴水のように、2 つの類型の特徴が共存している中世の噴水は非常に珍しい。

(2006 年 2 月 10 日原稿受理、2006 年 9 月 25 日採用決定)